

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所きらら館はるやま		
○保護者評価実施期間	令和8年2月2日		～ 令和8年2月17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数) 20名
○従業者評価実施期間	令和8年1月13日		～ 令和8年1月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	体験活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設での過ごし方を学ぶため、地域の公園やふれあい館に行ったり、スーパー等での買い物活動を行ったりしている。 ・お泊り活動として、施設内や、外部宿泊施設に宿泊する機会や、青少年センターでのレクリエーション活動の機会を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、社会体験活動として、公共施設や公共交通機関を利用する機会を設ける。
2	子どもたち一人ひとりに合った支援の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ごとではなく、子どもたちの段階に合わせたグループ編成を行っている。 ・小集団での活動に加え、個別療育の時間を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の行事や異年齢との交流など、活動内容によっては、全グループ合同など、少し人数の多い環境で過ごす時間も設けていく。
3	親子活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・親子でピザ作り体験等、一緒に活動を行う機会として、親子活動を開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者向けに希望する活動内容のアンケートを実施し、ニーズに合わせた活動を取り入れていく。 ・療育参観の機会が不足しているため、療育参観期間を設定し、活動の様子を見ていただく機会をつくっていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流や連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に向けて発信する機会が少ない。 ・地域の小学校や児童クラブ、地域住民との交流の場を設けるなど、体制の整備が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人のイベント時に、地域の方にもお越しいただけるよう発信していく。 ・放課後児童クラブや児童館との交流、地域の子どもと活動する機会を設けていく。
2	児童が通っている学校との連携が不足している	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時にやりとりをすることもあるが、担任の先生と直接お会いする機会が少なく、情報共有は不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、送迎時に担任の先生と直接会って話をすることができるよう声を掛ける。 ・長期休み期間や必要時に、保護者の同意のもと、面談の機会を設けて、様子の伝達や情報交換を行っていく。

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 多機能型事業所きさら館はるやま

公表日 令和 8年 2月 26日

利用児童数 21名

回収数 20名

Table with 7 columns: チェック項目, はい, どちらともいえない, いいえ, わからない, ご意見, ご意見を踏まえた対応. Rows include environment/structure, support provision, and guardian explanations.

非常時等の対応	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	19	0	0	1	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時の説明を行っていく。マニュアルを閲覧できるように声掛けを行っていく。 ・場面を想定した訓練の回数を増やしていく。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	20	0	0	1	<ul style="list-style-type: none"> ・地震や火災を想定した訓練を実施している。訓練時の様子について、ブログ等のSNSで発信をしたり、様子の伝達を行ったりしていく。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	20	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・事故等が発生したときには、速やかな連絡や状況説明を行っている。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	20	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが安心して過ごすことができるよう、気持ちに寄り添った声掛けや支援を行っていく。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	19	1	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、子どもの充実感や達成感、満足感につながるよう支援内容を考慮したり、環境づくりを行ったりしていく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	20	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、子どもたちが様々な経験を通して学び、成長につながるよう支援を心掛けていく。 ・子どもの成長や課題について丁寧に伝え、胸を解きながら、家庭と連携した支援を行っていく。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		多機能型事業所きらら館はるやま		公表日		令和 8年 2月 26日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・利用人数に応じて、訓練室等のスペースを十分に確保し、支援を行っている。 ・学習時、集中して取り組むことができるよう、訓練室内の配置を考慮している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・適切である。 ・活動内容や子どもの様子に応じて、配置する人数を調整している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・安全に過ごすことができるよう配慮している。 ・見通しを持つことができるよう、一日の流れをホワイトボードに記載している。必要に応じて個々の状況に合った視覚支援を取り入れることもある。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・訓練室使用時、使用後に清掃を行い、清潔な環境づくりを行っている。 ・子どもたちが活動に興味を持てるような空間づくりや、注意散漫とならないような必要な物品のみ出すよう工夫している。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・子どもの状況や様子に応じて、個別で活動する時間や、職員と話をする時間、クールダウンを行うことができるような部屋や場所を設けている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		・ケース検討会議等を通し、子どもの支援に関する目標や課題を挙げ、振り返りや見直しを行っている。 ・ミーティングを通して業務に関する課題を挙げ、改善策を講じている。 ・職員個人の目標設定を行い、定期的に振り返り、見直し、目標の再設定を行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・保護者向け事業所評価を実施し、意見を基に改善に取り組んでいる。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・職員会議やミーティング、ケース検討会議で、職員の気付きや意見を伝える機会を設け、業務改善につなげている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		・第三者評価による外部評価は行っていない。今後検討していく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・定期的に事業所内研修（支援内容や事業計画を踏まえた内容）を実施したり、法人内研修や外部研修に参加し、職員の資質向上に努めている。 ・非常勤職員参加の事業所内研修の機会を増やし、支援内容の共通理解につなげている。	・非常勤職員が参加する事業所内研修の機会が少ないため、今後機会を増やし、支援内容の共通理解につなげていく必要がある。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・適切に作成、公表を行っている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		・アセスメントを実施し、子どもの様子や保護者のニーズを分析した上で、放課後等デイサービス計画の作成を行っている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・担当職員から様子を取り聞いたり、支援者会議の中で現場職員の意見を取り入れたりしながら、こどもの最善の利益を考慮して、計画を検討している。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・放課後等デイサービス計画を掲示し、全職員が計画を意識しながら支援を行うことができるよう取り組んでいる。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・標準化されたアセスメントツールと、インフォーマルなアセスメントを組み合わせて情報収集を行っている。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・放課後等デイサービスガイドラインから必要な支援項目を選択し、支援内容を設定している。 ・5領域の視点を網羅した支援内容や目標を設定している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・各グループの担当職員が立案を行った後、他職員に伝達、配慮事項等について話し合いを行う時間を設けている。	・担当職員のみでの立案となっていることが多い。他の職員の意見も取り入れながら立案を行い、より充実した支援となるようにしていく。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・毎月の目標を決め、その目標を基に活動案を立案している。 ・外出活動やお泊り活動等、子どもの現況に応じて、活動内容を工夫し、様々な経験ができるようにしている。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		・個々の課題に応じて、個別活動、集団活動を組み合わせた計画となるよう配慮している。 ・活動内容に応じて、個別と集団を判別し、取り組んでいる。		

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・朝のミーティングで活動内容、子どもの様子や学校、保護者からの申し送り事項について共有、周知を行っている。その後、担当職員で、再度配慮事項等の確認、役割分担を行っている。	・日によっては、打ち合わせの実施が難しいこともあるため、毎朝のミーティング後に打ち合わせを行うことを徹底し、支援内容の充実を図る必要がある。 ・状況によって流れを変更しているが、全職員への伝達が不十分であることがある。確実に全職員で把握することができるよう、ホワイトボード等を活用し、情報共有を図っていく必要がある。
	21	支援終了後は、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・活動終了後、振り返りを行う中で、支援内容の振り返りや気付いた点の共有を行っている。	・振り返りや見直しの時間を十分に確保できていないことが多い。時間の確保や振り返りの仕方の見直しを行っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・日々の記録を取ることを徹底している。	・記録を見直す機会が少ないため、その都度見直しや振り返りを行いながら、必要に応じて、気付きや改善点についてケース検討会議やミーティングを行っている必要がある。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・定期的にモニタリングを実施し、課題を伝え、保護者の意向を取り入れながら、見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○		・個々の課題に応じて、複数組み合わせさせて支援を行っている。	
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		・選択肢を与えたり、本人の意思や気持ちを得ねたりし、子どもが自己決定できるよう支援を行っている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・子どもの状況に応じて、児童発達支援管理責任者や当該児童の担当職員を参画させ、事業所での様子について伝達し、情報交換を行っている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・必要に応じて連絡をとり、子どもの現状を伝え、連携を図っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		・学校と直接やりとりをすることは少なく、保護者との連絡が基本である。必要に応じて、学校と連絡を取っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		・必要に応じて連絡をとっている。	・密に情報共有を行うことはできていないため、情報共有や相互理解に努めていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		・現在は対象児童はいない。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			・地域の児童発達支援センターとの連携は不足している。また、スーパーバイズの活用はできていない。積極的に連携を図ったり、スーパーバイズを活用したりしていく必要がある。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			・子ども食堂を開催しているが、外部参加の人数が少ないため、SNS等を通して呼びかけを行っている。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			・今年度は参加ができていない。今後は積極的に参加していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・日頃の支援の様子や学習の様子について、保護者に伝え、共通理解を図っている。 ・直接お話しすることが難しい保護者に対しては、電話や保護者用アプリで様子の伝達を行っている。	・親子活動の実施の機会が少なかったため、親子での活動の場を増やしたり、療育参観を実施したりし、子どもの様子を見ていただく機会を増やしていく必要がある。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			・家族等の参加できる研修は実施できていない。保護者の意向を聞き取り、必要な研修の実施を検討していく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・契約時や必要に応じて説明を行っている。引き続き、丁寧な説明を心掛けていく。	・細かい説明が不足している点もあったため、細かく丁寧な説明を行っている。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・子どもや家族の意向を確認し、計画を作成している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		・丁寧な説明を心掛けている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・保護者からの悩みや相談に対し、相談しやすい環境をつくり、面談を実施したり、電話や保護者用アプリで対応したりし、その都度助言や支援を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		・保護者会については、3月に実施をしている。	・保護者の交流の機会については、実施ができていない。茶話会や保護者のみの活動等を計画し、保護者同士のかかわりや情報交換ができる場を提供し、機会を増やしていく必要がある。また、きょうだい同士の交流の機軸の実施も検討していく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・保護者からの相談や申し入れがあった際には、迅速に、職員間で共有、対応策を講じている。 ・ホームページにて、相談や申し入れ内容を掲載している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		・保護者用アプリで、活動予定表を掲載し、発信している。 ・ブログやインスタグラムに活動の様子を掲載し、発信している。	・保護者用アプリでの、活動の様子が発信が不足している。定期的に発信するようにしていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・個人情報の漏洩がないよう、十分に注意している。	・持ち物や書類等の入れ間違いのないよう、二重で確認を行っている。

	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・意思疎通や情報伝達のため、配慮しながら支援を行っている。 ・直接お会いすることが難しい保護者に対しては、必要に応じて電話や保護者用アプリを使って、様子の伝達を行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		・法人内イベントを開催し、地域住民を招待している。今年度は収穫した芋の販売を行っている。	・子ども食堂への参加の呼びかけを行っているが、外部からの参加は少ない。今後、SNSを通して、積極的に行事等への参加の呼びかけを行っている。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・玄関にマニュアルを掲示している。火災や地震等、場面を想定した訓練を定期的に行っている。	・職員はマニュアルに目を通す機会はあるが、保護者がマニュアルに目を通す機会がないため、保護者会等で、説明や周知を行っている。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・BCPを策定し、定期的に避難などの訓練を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		・服薬については、毎日連絡帳にて確認を行っている。予防接種やてんかん発作等の状況についても、その都度確認し、周知している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・保護者へ医師からの指示を確認し、除去食等の対応を行っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		・安全計画を作成し、研修や訓練を実施している。施設点検や散歩コースのチェックを行い、安全な環境で支援を実施することができるよう努めている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		・安全計画に基づく取組内容について、玄関に掲示している。	・安全計画に基づく取組内容について、玄関に掲示はしているが、保護者が目を通す機会が少ない。保護者会等で、説明や周知を行っている。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・ヒヤリハット報告書を作成し、ミーティング時に周知、改善策について検討を行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・虐待防止や子どもへの声の掛け方、かかわり方についての研修を行い、虐待防止、早期発見等の対応に取り組んでいる。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		・身体拘束については行ってはいない。		